

### 創部、創立記念祝賀会

専修大学体育会3つの部で記念祝賀会が開催された。関係者や卒業生らが多数出席し、これまでの歴史を振り返るとともに、新たな門出を祝った。

#### 【ソフトテニス部創部90周年】

11月13日、生田キャンパスで行われた。菅沼堅吾育友会長らが出席し、部員たちは100周年を見据え、決意を新たにした。



#### 【陸上競技部創立85周年】

同部とOB会である走友会の記念祝賀会が11月13日、神田キャンパスで催された。日高義博理事長・学長ら約100人が出席し、更なる発展を祈念した。

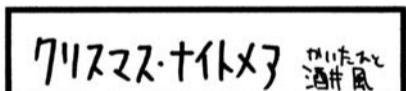


#### 【フェンシング部創立50周年】

11月6日、神田キャンパスで開かれた。加藤茂夫体育部長ら約90人が出席。50周年の節目を祝い、一層の飛躍を誓った。



### 漫画研究同好会



▲「南砺スポーツエクスプレス」第1号を手に。南砺市は8か所の総合型地域スポーツクラブがあり、スポーツ振興や指導者の資質向上のための研修活動が盛んな地域。齊藤准教授は同地域の活動に9年前からかかわり、指導者の育成や地域スポーツの振興などに協力してきた。今回「最新のスポーツ情報を分かりやすく伝える冊子」と依頼があり、「学んだ知識を社会に還元する機会になる(齊藤准教授)と学生

### 学んだ知識で総合型地域スポーツクラブの活動に協力

11月27、28両日には平山敢さん(経済4)、原田さん(山元孝敏さん(経営3))が協議会のメンバーである「NPO法人ふくのスポーツクラブ」(クラブ員400人)のスポーツテストに協力。山元さんはその後も現地にどまり、取材を

アスリートのコンディショニングやスポーツをする子どもの発育・発達をテーマにしている齊藤実教授ゼミでは、本年度「ニュースレター」「コンディショニング」「テーピング」「トレーニング」の4チームが研究を進めている。ニュースレターチームは、富山県南砺市の総合型スポーツクラブ連絡協議会の依頼を受け、最新のスポーツ情報を掲載した「ニュースレター」を発行している。南砺市は8か所の総合型地域スポーツクラブがあり、スポーツ振興や指導者の資質向上のための研修活動が盛んな地域。齊藤准教授は同地域の活動に9年前からかかわり、指導者の育成や地域スポーツの振興などに協力してきた。今回「最新のスポーツ情報を分かりやすく伝える冊子」と依頼があり、「学んだ知識を社会に還元する機会になる(齊藤准教授)と学生



▲ゼミでは活発な研究報告が行われる

主体で発行することになった。原田さんは「地域でスポーツを盛り上げよう」という団結力に感動しました。こういった組織が各地に広がれば、才能ある選手を早い時期に発掘でき、日本の競技力向上や子どもへの健康やかな成長につながると思います」と地域スポーツクラブの可能性を話す。編集責任者の平山さんは「自分で理解していないと、人に『伝わる』文章を書けるのは難しいと感じました」と振り返る。だが、人とのつながりを大切にする先生のおかげで貴重な経験をさせていただいています。学会参加など幅広い世代の方々と触れ合う機会が多く、確実に「人間力」が上がっていると思えます」と話している。1月発行予定の第2号は、森下涼平さん(経済2)と山元さんが中心となり、ゼミのほかのメンバーにテーマ設定や担当の割り振りなどを決めていく。森下さんは「陸上をやっていたので『シューズの選び方』を一つのテーマに考えています。先輩たちの仕事のやり方を参考に、地域の方々に楽しく読んでいただける内容にしたい」と意気込んで

## 団体でベスト8入り



▲大将戦での蒲田(撮影=三川村真樹・人間科学1)

相撲・全国学生選手権 11月6、7の両日、東京の両国国技館で行われ、専大は目標としていた団体戦ベスト8入りを果たした。予選リーグで2勝を挙げ、決勝トーナメントへ進出。しかし、1回戦で今大会優勝の近畿大と対戦し、大将を務めた蒲田勝太(商3・専大松戸高)が一矢を報いたが1-4で敗れた。昨年の13位から大きく

順位を上げ、来年に良い形でつなげることができた。学生最後の大会を終え、窪田敬介主将(商4・向の岡上高)は「やはり上位校の選手は良い稽古を積んでいると感じた。後輩たちには、みんながレギュラーであるという自覚を持ち、これからの競技に臨んでほしい」と話し、次代へ望みを託した。(土屋 杏有美・文2)

## 佐藤が準優勝

アーチェリー・関東学生新人個人選手権 関東学生アーチェリー 一球技場で行われた。新人個人選手権が11月10日から12日まで、駒沢第1(経営1・田村高)が準優勝となった。



▲今後の活躍が期待される佐藤(撮影=土屋)

試合後、「調子は少し悪かったが、なんとか上位に食い込めた」とコメント。今後は関東学生インドア個人選手権(12月21、22日)に焦点を合わせ、優勝を逐った。(土屋)

## 平井がベスト4

バドミントン・関東学生新人選手権 関東学生バドミントン 1ト勝ち。準々決勝は接戦の末第1セットを落とすも、2セット連取し勝利。準決勝は1-2で敗れた。平井は「課題が明確になった。練習を大事にして、全国で活躍できるようにしたい」と今後の目標を話した。(橋本 里恵・文1)

## グリーンマシーン6位

アマフト・関東大学リーグ戦 グリーンマシーン6位 関東大学アメリカカンファレンスで逆転された東海大戦など、悔いの残る試合が多かったが、QB西畑匡也(法1・浦和学院高)ら注目の1年次生が経験値を積んだ。来季こそは巻返しを期待したい。(原 裕太郎・経営2)

## 礎築き、来シーズンへ

ラグビー・関東大学リーグ戦(2部) 武田達也主将(経済4・啓光学園高)は「チームの礎は固まったと思う。熟考したプレーを心掛けて、成長していったらいい」と、後輩たちへ思いを引き継いだ。(土屋)

## 齋藤実・スポーツコンディショニングゼミ

アスリートのコンディショニングやスポーツをする子どもの発育・発達をテーマにしている齊藤実教授ゼミでは、本年度「ニュースレター」「コンディショニング」「テーピング」「トレーニング」の4チームが研究を進めている。ニュースレターチームは、富山県南砺市の総合型スポーツクラブ連絡協議会の依頼を受け、最新のスポーツ情報を掲載した「ニュースレター」を発行している。南砺市は8か所の総合型地域スポーツクラブがあり、スポーツ振興や指導者の資質向上のための研修活動が盛んな地域。齊藤准教授は同地域の活動に9年前からかかわり、指導者の育成や地域スポーツの振興などに協力してきた。今回「最新のスポーツ情報を分かりやすく伝える冊子」と依頼があり、「学んだ知識を社会に還元する機会になる(齊藤准教授)と学生



▲ゼミでは活発な研究報告が行われる

主体で発行することになった。原田さんは「地域でスポーツを盛り上げよう」という団結力に感動しました。こういった組織が各地に広がれば、才能ある選手を早い時期に発掘でき、日本の競技力向上や子どもへの健康やかな成長につながると思います」と地域スポーツクラブの可能性を話す。編集責任者の平山さんは「自分で理解していないと、人に『伝わる』文章を書けるのは難しいと感じました」と振り返る。だが、人とのつながりを大切にする先生のおかげで貴重な経験をさせていただいています。学会参加など幅広い世代の方々と触れ合う機会が多く、確実に「人間力」が上がっていると思えます」と話している。1月発行予定の第2号は、森下涼平さん(経済2)と山元さんが中心となり、ゼミのほかのメンバーにテーマ設定や担当の割り振りなどを決めていく。森下さんは「陸上をやっていたので『シューズの選び方』を一つのテーマに考えています。先輩たちの仕事のやり方を参考に、地域の方々に楽しく読んでいただける内容にしたい」と意気込んで